

# エチオピア森林コーヒーのバリューチェーン 構築の取り組み

開発プロジェクトとビジネスとの連携：  
ベレテ・ゲラ参加型森林管理計画における経験と教訓

2011年4月28日

西村 勉

(ベレテ・ゲラ参加型森林管理計画フェーズ2元専門家)

# プレゼンテーションの概要

- ベレテ・ゲラ森林の紹介
- プロジェクトの概要と実施戦略
  - 森林管理と生計向上の両立を目指して
- 森林コーヒーの生産者と生産方法
  - 対象集落の様子と人々の生活
- 森林コーヒー国際認証取得に向けた取り組み
- バリューチェーンの構築に向けた取り組み
  - 現地輸出業者とのビジネスパートナーシップの構築
  - 日本企業との連携
- 教訓と考察
  - ODAプロジェクトと民間企業との連携における留意点
  - ビジネスとしての継続性・将来的な可能性
  - 開発プロジェクトとビジネスをつなぐJICA専門家の役割

# プロジェクト・サイト:ベレテ・ゲラ森林優先地域



エチオピアの森林は……？



## Betele-Gera Regional Forest Priority Area

- 150,000 Ha (Altitude 1,500 ~ 3,000m)
- Around 18,000 Households (125 communities in 44 villages)
- Afromontane rainforest with wild coffee
- Rich in native floristic composition
  - *Aningeria adolfi-friedericii*
  - *Albizia gumifera*
  - *Cordia africana*
  - *Croton macrostachyus*
  - *Hagenia abyssinica*
  - *Olea welwitschii*
  - *Podcarpus gracilior*
  - *Schefflera abyssinica*







ゲラ森林を源流とするナソ川はケニアのツルカナ湖へ流れ込みます







野生の蘭も自生しています



森に自生するカルダモン(コロリマ)

ベレテ・ゲラの森に住む野生動物



**Black and White Colobus**



**Blue Monkey**



**Giant Forest Hog**



**Lion**

# プロジェクト概要と実施戦略

- 目標：ベレテ・ゲラ森林優先地域内に居住する住民グループ（WaBuB）と行政による参加型森林管理を実施する。
  - 森林管理契約の締結と運用（WaBuB⇔オロミア森林公社）
    - 森林優先地域内への居住権、森の利用権の承認
    - 森林利用ルールを規定（WaBuBの権利と義務の明文化）
  - 生計向上：
    - 土地利用の多様化による農業生産性の改善（農民の学校）
    - 非木材林産物の商品化と市場開拓（森林コーヒーの認証）
  - 住民組織の能力強化

**森林管理・保全＝生計向上の両立を目指す**

\* WaBuB: 森林利用者により組織化される森林管理組合

# キーワード

- 方程式:「森を守る」=「生活が良くなる」を解く
  - 森を今後も良い状態で守り続けていくことのメリット(生計の安定・収入増加)を、住民自身が認識できるような仕組みを整備する(森を守ることで、森からの現金収入が増える)→ 結果として、森林の農地化圧力を低減させる
  - ベレテ・ゲラの森にある資源を利用する～森林コーヒー、蜂蜜、スパイス・・・～何をエントリーポイントとするか
  
- 森林コーヒーの国際認証取得とマーケティング
  - 既に既定のマーケットが存在→付加価値をつける
  - 対象地域に住む多くの住民が裨益できる商品
  - 大きな投資(施設)を必要としない

# 森林コーヒーの生産者と生産方法

- ベレテ・ゲラの森林コーヒー
  - アラビカ・コーヒーの原木
  - 改良品種ではない
- 生産者：森林利用者（WaBuBメンバー）
  - 集落レベルの伝統的な森林利用権（世帯ごとの利用権）
  - 居住者（村の住民）と季節利用者
- 最低限の管理と伝統的な収穫・乾燥・出荷方法
  - 収穫前後の下草刈り
  - 自然に発芽した森林コーヒーの苗木の移植
  - 化学肥料・農薬等の使用はなし
  - 収穫後は天日乾燥



森林内の様子～高・中木の下に森林コーヒーが自生する



森林コーヒーの原木



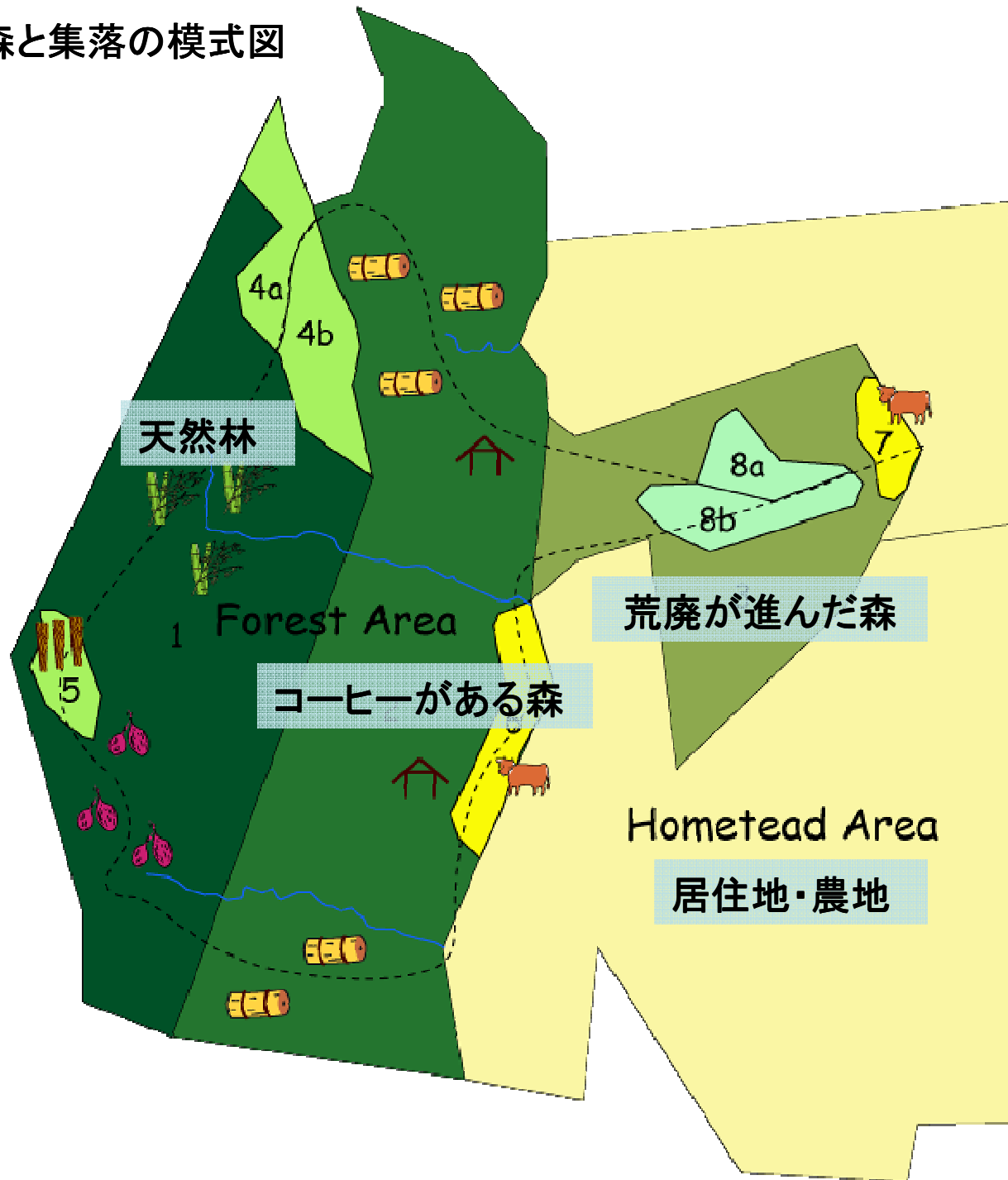




花を咲かせた森林コーヒー



# 森と集落の模式図



**Legend**

- Foot Pass
- Stream
- Primary Forest
- Forest Coffee
- Secondary Forest
- Degraded Forest
- Open Area in Forest
- Open Area along boundary
- Temporary Hut
- Irrigal Logging
- Bee Hives
- Spices
- Bamboo

# ゲラ森林内の集落









季節利用者がコーヒー収穫用に使う森の中の簡易な家







収穫したコーヒーを庭先で乾燥



# 森林コーヒー国際認証取得に向けて ～ Rainforest Allianceとの協力～

- 貴重な森林コーヒーに付加価値を付ける～認証取得
- 何故「レインフォレスト・アライアンス」なのか？
- 森林コーヒー認証審査基準（森林利用・管理方法、生産方法、自然生態系保全、小規模生産者の労働環境）とWaBuB（森林管理契約、内規）が規定する森林利用・管理方法に類似点が多い
  - WaBuB森林管理契約に従って森を保全・利用することで、森林コーヒーの認証審査に合格することが可能（WaBuBメンバーに、コーヒー認証取得のために新たなルールを課す必要がない）
- 認証を受けたコーヒーの市場開拓に向けた優位性
  - レインフォレスト・アライアンスの広報・発信力に注目
- 2007年11月に初の認証取得に成功

# バリューチェーンの構築：2007~2008年

## □ レインフォレスト・アライアンス認証取得参加者の推移

	2007-08	2008-09	2009-10	2010-11
参加WaBuB数	4	21	48	58
参加者農民数	550	1,700	2,808	3,050

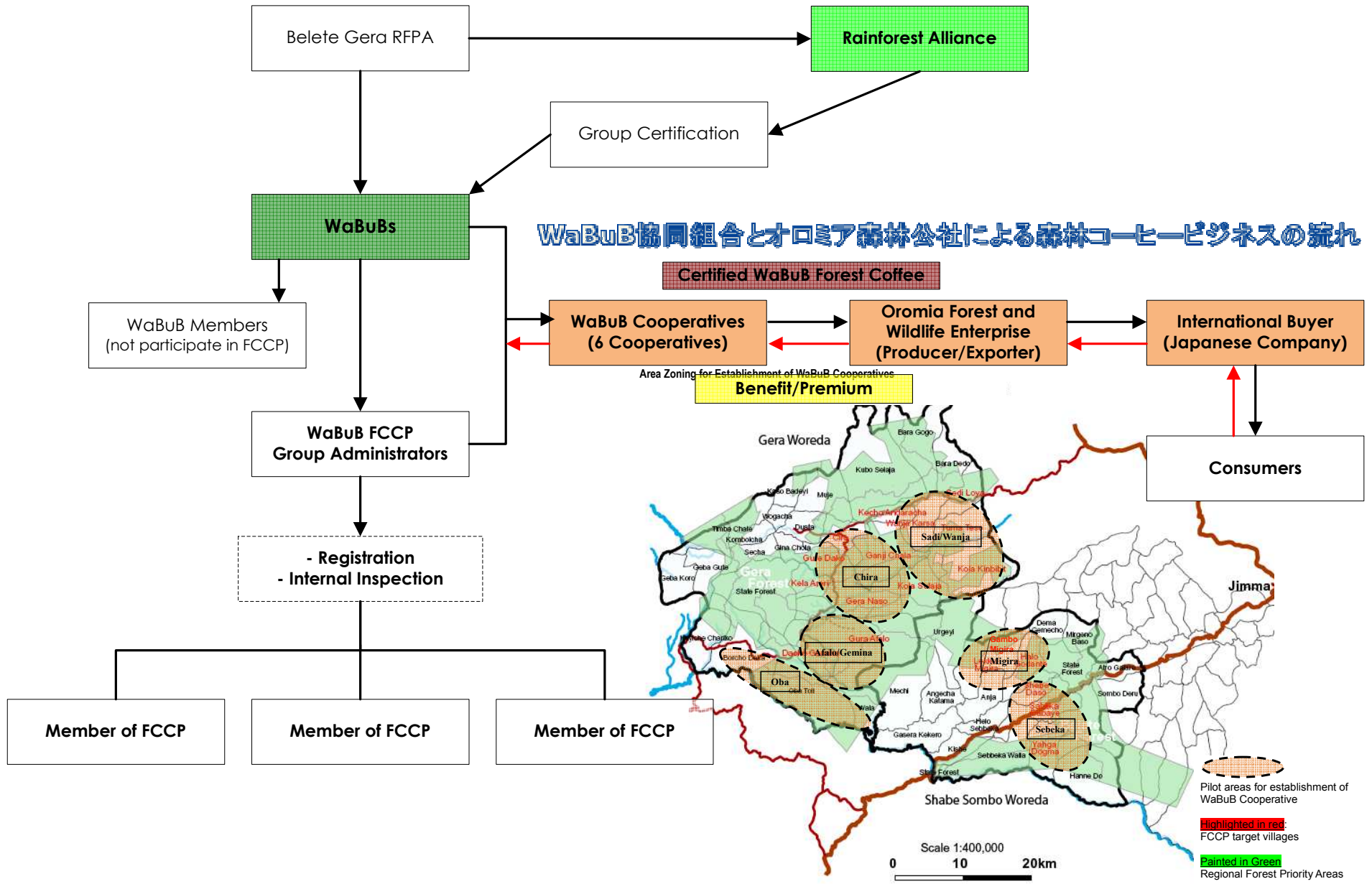
## □ 現地コーヒー輸出業者とのビジネス・パートナーシップ関係の構築(2007~2009年)

- 輸出業者による認証コーヒーの一括買い付け
- プレミアムの支払い(市場価格に対して15~25%)
- 中間業者の排除
- コーヒーの品質向上(摘み取り・乾燥・保管方法)に関する技術支援の要請

# 市場開拓戦略：農産物取引所の開設による影響

- 2008年にエチオピア農産物取引所が開設される
  - 小規模生産者保護を目的とした産地・等級別の全量入札制度の導入
  - 民間輸出業者が直接生産者からコーヒーを買い付けることができなくなる
  - WaBuBとビジネスパートナーとの直接取引は違法となる
    - プレミアム・コーヒー取引の存続の危機
- プロジェクトによるエチオピア政府への働きかけ
- WaBuB協同組合の設立(2009~2010年)とオロミア森林公社によるコーヒー輸出業者免許の取得
  - WaBuB協同組合～オロミア森林公社が生産者としてコーヒーを直接輸出するルートを構築

# Structure of WaBuB Forest Coffee Certification Program (FCCP)



WaBuB協同組合とオロミア森林公社による森林コーヒービジネスの流れ

Certified WaBuB Forest Coffee

WaBuB Cooperatives (6 Cooperatives)

Oromia Forest and Wildlife Enterprise (Producer/Exporter)

International Buyer (Japanese Company)

WaBuB FCCP Group Administrators

- Registration  
- Internal Inspection

Member of FCCP

Member of FCCP

Member of FCCP

Consumers

Benefit/Premium

Area Zoning for Establishment of WaBuB Cooperatives

Pilot areas for establishment of WaBuB Cooperative

Highlighted in red: FCCCP target villages

Painted in Green: Regional Forest Priority Areas



十分に乾燥させたコーヒーを麻袋に詰めWaBuB協同組合へ出荷





WaBuB協同組合の倉庫に保管されている森林コーヒー



オロミア森林公社によるWaBuB協同組合からのコーヒー買取



オロミア森林公社により買い取られた乾燥コーヒーはジンマで脱穀後、生豆の状態でアディス・アベバへ輸送する。その後、輸出手続きや最終選別作業等を経て海外市場へ出荷される

# バリューチェーンの構築：日本への輸出

- 農民に支払われるプレミアムの額は、オロミア森林公社(輸出元)・協同組合が優良な海外の買手(輸出先)と連携しているかによる
  - 認証森林コーヒーの価値に相応の対価を支払ってくれる買手が必要
- アラビカ種の起源、エチオピアの天然森に自生する森林コーヒー、自然環境保全、小規模生産者の生計向上・・・ストーリー性、売りは多い!
- 地球環境問題への関心の高まり
- **兼松(株)**: 国内ロースター向けのスペシャリティ・コーヒー(森林コーヒー、環境配慮、小規模農家支援)営業を推進
  - 2007年12月に兼松(株)よりプロジェクトへ初めてのコンタクト
  - 2010年11月にWaBuB森林コーヒーの第一便(18トン)がジプチ港から日本に向けて出荷
  - ベレテ・ゲラの森林コーヒービジネスは関係者内で完結
    - 生産者: WaBuBメンバー、現地での買い付け: WaBuB協同組合、輸出者: オロミア森林公社
  - 純利益: 1,500,000ブル程度(約750万円)となる見込み
  - 2011年2月「UCCモカワイルドベレテゲラ」の発売

# WaBuB森林コーヒーの販売



UCC本社におけるオロミア森林公社総裁とUCC  
原材料輸入部長との面会（2010年10月）



UCCは「カフェネイチャー」を通じて、地球環境を考え、コーヒーの生産と自然との調和を目指しています。

エチオピア国内では、急激な人口増加、森林伐採などにより、森林地帯も消滅の危機に瀕しています。そこで、この状況に対処するためにJICA（国際協力機構）はベレテ・ゲラ森林において参加型森林管理プロジェクトを実施。現地住民による森林管理組合（WaBuB/ワブブ）による持続的な森林管理体制を構築していく中で、国際認証のひとつである、レインフォレスト・アライアンス認証を取得。エチオピア国内でも数少ない「森林の中で自然のままに育ったコーヒー」として、日本に輸出されることになりました。

正に「エチオピアン・オリジン」と呼ぶにふさわしいコーヒーです。

レギュラーコーヒー 200g

# バリューチェーンの構築：日本への輸出

- (株)生活の木によるコミュニティ支援(プロジェクト活動を補完する支援活動と位置付ける)
  - 顔の見える直接支援の可能性を探る
  - ガーナにおける女性グループ支援の経験(シアバターの製品化・日本への輸入)もある(株)生活の木へアプローチ
  - 女性グループによる手焙煎コーヒーの作成・輸入
    - 2010年9月までに計1756袋(220g入り)を輸出(輸出元:オロミア森林公社)
    - 約21,000ブル(約11万円)の純利益を確保
    - 今後も継続的に活動を実施予定(2011年は3000袋を輸入予定)
  - 同利益はWaBuBの女性メンバーに直接裨益するコミュニティ活動に還元される

# 女性グループによる手焙煎コーヒー



生活の木の店舗で販売中の手焙煎コーヒー

オロミア森林公社総裁と生活の木 宇田川  
専務取締役(2010年10月)





廃材を利用した焙煎機によるコーヒー焙煎作業



焙煎後の選別作業～食品衛生にも十分に配慮





焙煎コーヒーの袋詰め作業

# 森林コーヒーバリューチェーンの構築（まとめ）

活動	2007	2008	2009	2010	2011
認証審査・取得	■	■	■	■	
現地民間企業との連携	■				
農産物取引所の開設		■	■		
プロジェクトによる政府への働きかけ		■			
WaBuB協同組合の設立			■		
オロミア森林公社輸出業者免許の取得				■	
WaBuB協同組合によるコーヒー買付け				■	
オロミア森林公社によるコーヒー輸出準備				■	
WaBuB森林コーヒーの輸出契約締結 (兼松㈱とオロミア森林公社)					■
WaBuB森林コーヒーの日本への船積み					■
兼松㈱との協力関係構築	●	■	■	■	■
UCC ワイルドベレテゲラ販売開始					■
(株)生活の木との協力関係の構築	● ■ ■	■ ■ ■	■ ■ ■	● ■ ■	

担当者の現地訪

焙煎コーヒーの  
試験的販売

女性グループによる  
手焙煎の開始

手焙煎コーヒーの  
日本での販売開

## さまざまな疑問も . . .

- 森林コーヒーの付加価値化で、本当に森は守れるの？
  - 疑問1「コーヒーに高い付加価値がつけば、農民は逆に森を開墾し、貴重な自然林が“コーヒープランテーション化”するのではないか？」
- ビジネスの継続性は？
  - 疑問2「はたしてプロジェクト終了後もWaBuB協同組合と森林公社によるコーヒービジネスは継続できるのか？」
- 森林コーヒーをキーワードにした森林保全アプローチの有効性
  - 疑問3「森林コーヒーが自生しないエリアで、このアプローチは機能するのか？」

# 疑問への回答

- 疑問1「コーヒーに高い付加価値がつけば、農民は逆に森を開墾し、貴重な自然林が“コーヒープランテーション化”するのではないか？」
  - 認証対象は「森林コーヒー」に限定
  - レインフォレスト・アライアンスによる「森林コーヒー」認証基準の制定に向けた取り組み
- 疑問2「はたしてプロジェクト終了後もWaBuB協同組合と森林公社によるコーヒービジネスは継続できるのか？」
  - 民間企業との連携により、プロジェクト終了後も、オロミア森林公社とWaBuB協同組合が自立して森林コーヒー認証・ビジネスを継続していくため仕組み・土台作り
  - 組織のキャパシティ・ビルディング～時間はかかります
- 疑問3「森林コーヒーが自生しないエリアでは・・・」
  - ベレテ・ゲラアプローチは「森林コーヒー認証」だけではない。「森林管理契約(制度)」「土地の生産性向上(農民の学校)」「森林コーヒー認証(非木材林産物を利用した収入創出)」のセットで実施

# 教訓・考察

- プロジェクトの目標（住民と行政による森林管理・保全の具現化）を達成するための活動実施戦略・アプローチを明確に示す必要がある～「コーヒー生産・流通支援プロジェクトではない」
  - 何故、森林コーヒーの認証とマーケティング支援が必要なのか
  - 何故、ビジネスとの連携、バリューチェーンの構築が必要なのか
  - 住民組織、森林公社のメリットは、自立発展性は
    - 活動開始前に関係者に対して、これらの質問に的確に答えることが重要～全ての関係者が共通の認識・理解を持つこと
- ODAプロジェクトと民間企業との連携における留意点
  - 公的資金（ODA）によるプロジェクト～公平性と説明責任
  - 情報は全てオープン、興味を示していただける企業には同じ情報を提供
  - 短期的な利益より、長期的なコミットメントに期待
  - 第三者機関（レインフォレスト・アライアンス）の介在

# 教訓・考察

- ビジネスとしての継続性と将来的な可能性
  - エチオピアの一般的なコーヒー市場のメカニズムにも対応できる仕組みであること
  - 住民・協同組合への金銭的な直接投入は行わない
    - プロジェクトだからできる特別な支援はできるだけ控える
  - 組織(オロミア森林公社・WaBuB協同組合)として自立してビジネスを継続するための経験の蓄積には時間がかかる(プロジェクトは期間限定)→まだ道半ばの状況
- 開発プロジェクトの現場と、ビジネスをつなぐJICAプロジェクト専門家の役割
  - 民間企業のパートナーが最も知りたいことは何か～現地の状況等を的確に、タイムリーに知らせる。
  - 現地と企業を結ぶ公平な仲介者としての役割を担う